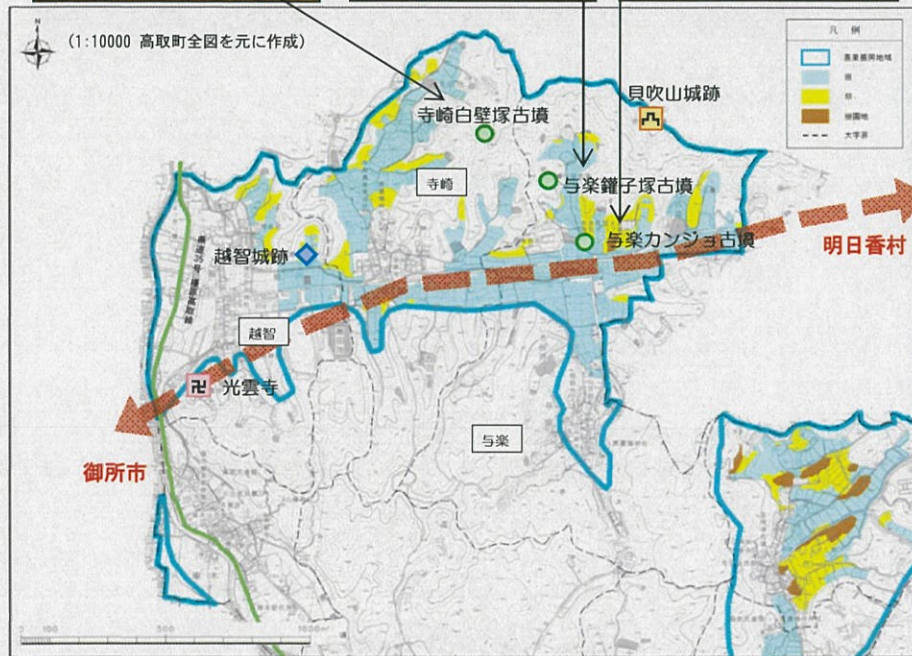


3. 地区の概要

■ 地域資源について

- 高取町内には、数多くの古墳が残されており、対象地域内の与楽から寺崎にかけては、国指定史跡の与楽カンジョ古墳・与楽罐子塚古墳、寺崎白壁塚古墳が分布。
- 整備後の維持管理・運営体制は構築されていない。（市尾墓山古墳では、地元による体制あり。）
- 越智谷は中世越智氏の本拠地であり、越智城跡や貝吹山城跡、光雲寺などの越智氏ゆかりの旧跡が点在している。



強み：与楽古墳群が国指定史跡となり、整備計画に基づき周辺整備中（H. 35完成予定）である。
地区内に古墳群や貝吹山等の地域資源がある。

■ 与楽古墳群（国指定）

- 与楽古墳群は、古墳時代後期・終末期の奈良県において卓越した内容をもつ首長墓であり、古墳の墳形及び埋葬施設の構造の変遷をたどることができる点で貴重であること、渡来系氏族の動向を知る上で重要であることから、2013年に史跡名勝天然記念物に指定された。

【与楽古墳群保存管理・整備計画の整備方針】

- 遺構の保存のための整備。
- 歴史学習の場やレクリエーションの場、街のシンボルとしての活用を考慮した整備。
- 各古墳を園路・遊歩道で結び古墳群全体としての活用の検討。



与楽カンジョ古墳整備計画平面図

与楽古墳群保存管理・整備計画範囲

資料：国指定史跡与楽古墳群保存管理・整備計画

【地域会議における住民の意見】

- 与楽古墳群のことは知らなかった。町民でも知らない人が多いのではないかな。
- 古墳の存在は知っていたが、どのような古墳かまでは理解していない。
- 古墳に行く際の道に歩道がない。誘導案内もない。

弱み：古墳群の維持管理・運営体制がない。
古墳群への歩行経路が整備されていない。
地域資源間の案内が不足し、地区内の資源を有効に活用できていない。

3. 地区の概要

■ 周辺自治体の近年の動向

■ 広域連携に関する動向

① 飛鳥観光案内サイン整備計画

(平成27年3月国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所)

- ・ 橿原市、明日香村、高取町の観光客周遊の支援のため、地域内の各団体が連携し共同で観光案内サインを設置する計画。

② 日本遺産の認定

「日本国創生のとき～飛鳥を翔た女性たち」

(平成27年度認定)

- ・ 高取町は構成要素を含む地域として、橿原市、明日香村と一体となり認定を受ける。
- ・ 対象区域には、構成要素の「高取城跡猿石」「光永寺人頭石」「芋峠」が位置する。

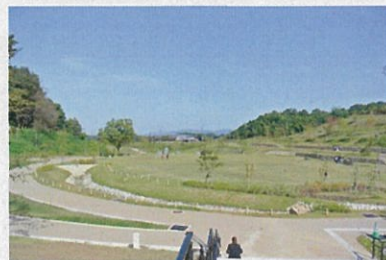


《写真 飛鳥観光案内サイン》

■ 隣接自治体に関する動向

① 国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」の開園

- ・ 明日香村内の国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」が平成28年9月に開園した。



《写真 開園した国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」》



《図 町内の日本遺産を構成する文化財位置図》

資料：日本国創生のとき～飛鳥を翔た女性たち

② 明日香村が(株)星野リゾートホールディングスと「企業立地に関するパートナーシップ協定」を締結

- ・ 明日香村と株式会社星野リゾートホールディングスは、平成28年10月28日に、明日香村における企業立地の推進と、企業活動が地域に根ざした発展に資することを目的として、パートナーシップ協定を締結。明日香村真弓地区内を候補地として宿泊施設を立地する事業が進められる。



《写真 誘致場所 明日香村真弓地区内》 資料：明日香村HP

③ 橿原神宮前に新たな観光案内所がプレオープン

- ・ 橿原市で2カ所目の観光案内所が、平成28年10月にプレオープン（平成29年3月末まで）。
- ・ 観光案内や相談、観光情報発信、観光関連チケット等の販売、宿泊の紹介、インターネット接続可能なPC又はI-Padの設置やユニバーサル対策を実施。



《写真 かしはら観光インフォメーションセンター》

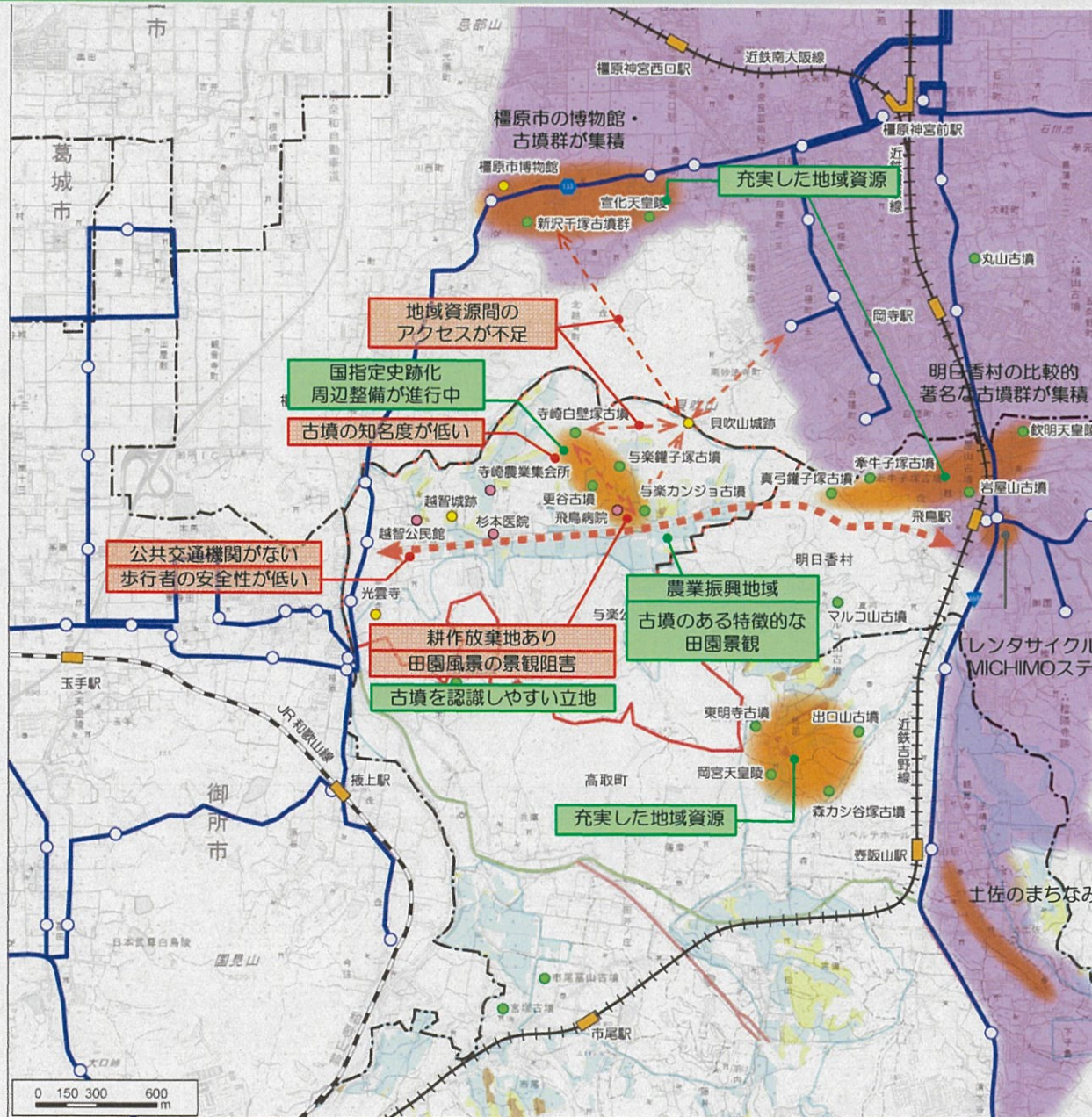
出典：橿原市観光協会HP

機会：飛鳥地域の周遊に関する計画が進められている。本地区近傍に明日香村が宿泊施設を誘致する計画がある。

脅威：地方創生に向け、他自治体も地域資源等を活かしたまちづくりを加速している。

3. 地区の概要

■ 対象地区の現状



- 凡例
- 対象地域
 - バス路線
 - 農業振興地域
 - 田
 - 畑
 - 樹園地
 - 古墳
 - その他観光資源
 - 公共施設等
 - MICHIMO 走行可能エリア
 - 地域資源集積エリア

- 【農業全般】
- 農業従事者の減少、高齢化
 - 農業のイメージ・知名度がない
(ブランド力がない)
 - 農産物の販売所が少ない
 - 薬草を用いたプロジェクト
 - 新規就農者の受け入れ体制

- 地区の強み
- 地区の弱み

(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

4. 地区の課題整理

■ 対象地区の強み、弱みの整理

(1) 農業の現況

	強み		弱み	
農地 (働く場)	優良農地の存在	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興地域として、まとまった優良農地がある。 	働く場・拠点の未整備	<ul style="list-style-type: none"> 耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加している。 農作物等の販売拠点が少ない。
特産品 (ブランド化)	薬草プロジェクトの進行	<ul style="list-style-type: none"> 町の特産品である薬草を用いたプロジェクトが進行している。 	農のブランド力不足	<ul style="list-style-type: none"> 高取町の農や特産品の知名度が低い。
地域の担い手	新規就農者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者が営農開始し、農業従事者など地域の担い手候補がいる。 地域に新規就農者の受け入れ体制がある。 	農業従事者の減少	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化・人口減少が進行し、将来の継続的な営農困難が想定される。 新規就農者の定着が必要。
田園景観	特徴的な田園景観	<ul style="list-style-type: none"> 古墳のある特徴的な田園景観が維持されている。 	田園景観の阻害	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地や修繕されない資材置き場等が、田園景観の阻害要因となっている。 景観保全地区の制度が景観の改善策として十分でない。

(2) まち・地域の現況

	強み		弱み	
古墳群の魅力	古墳群の国指定史跡化	<ul style="list-style-type: none"> 与楽古墳群が国指定史跡となり、整備計画に基づき周辺整備中(H.35完成予定)である。 	知名度不足・体制不足	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域の観光客数に対し高取町への観光客数は少ない。 古墳めぐりを目的として高取町を訪れる人が少ない。 古墳群の維持管理・運営体制がない。
古墳群へのアクセス性	認識しやすい立地	<ul style="list-style-type: none"> 古墳が町道沿いに立地するため、認識しやすい。(シンボル性がある。) 	アクセスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 地区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。 古墳群への歩行経路が整備されていない。
地域資源	充実した地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地区内に古墳群や貝吹山等の地域資源がある。 高取町を含む飛鳥地域には地域資源が充実している。 高取町を含む周辺地域の観光客数は奈良県下で最も多い。 	地域資源の未活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源間の案内が不足し、地区内の資源を有効に活用できていない。